

ACT 2 | サステナビリティ マネジメントの徹底

5つの施策を通じてサステナビリティ向上と経営基盤強化を推進

2050年のめざすべき社会の実現に向けて、KV30では、5つの施策で環境・社会のサステナビリティ向上と経営基盤の強化に取り組んでいきます。

サステナビリティ マネジメント

1	LCA ツールの進化		従来の製品の環境負荷を評価するLCAから、社会へのインパクトも含めてバリューチェーン全体で評価する、高いレベルのLCAへと進化させていきます。
2	環境インパクトの削減		バリューチェーン全体を通じたGHG低減・有効活用に加え、事業活動を含めた社会全体の持続可能な水供給・利用、資源管理への貢献に取り組み、環境負荷を低減していきます。
3	サーキュラーエコノミーの推進		マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルの技術開発やビジネスモデルの開発、バイオプラスチックの提供を通じて、サーキュラーエコノミーの推進に貢献していきます。
4	KAITEKIファクトリーの可能性検討		社会課題の解決に貢献するソリューションを提供する「KAITEKIファクトリー」と地域社会が融合したエコシステムの実現をめざします。
5	サステナビリティマネジメントの経営基盤構築		以上4つの施策を実現するため、意思決定プロセスや組織・人材といった経営基盤を整備し、サステナビリティ マネジメント体制を構築していきます。

GHG 排出量

2030年度に国内26%削減(2013年度比)
海外においては各国政府目標に沿った削減

環境インパクトニュートラル達成(2050年)に向けた基盤構築

TOPIC LCAツールの進化に向けて ~Value Balancing Alliancelに参画~

MCHCは、2019年12月に、新たな企業価値算出手法の確立を目的に設立された、Value Balancing Alliance (VBA) に日本企業として初めて参画しました。VBAは、OECDや複数の監査法人と協力し、LCAの考え方を環境影響のみならず社会影響にも展開するなど、企業が環境・人・社会に与える影響を金額換算し、企業間での比較・分析を可能にする企業価値算出手法と、それに基づく会計基準の確立をめざしています。

当社は、VBAのステアリングコミッティおよび企業価値算出手法開発を担うチームに入り、検討を進めています。VBAでの手法開発を通じて、当社のLCAツールを従来の製品の環境負荷を評価する手法から、社会へのインパクトも含めてバリューチェーン全体で評価する高いレベルの手法へと進化させ、ESG要素を内包したKAITEKI 価値算出の高度化を図っていきます。